

【認知症とはどんな内容なの？（2）】

★

前回は引き続き認知症の説明をします。

⑥認知症の原因となる病気は、「アルツハイマー型認知症」と「脳血管性後遺症」です。この2つの病気で認知症全体の80～90%を占めています。

現在では、アルツハイマー型のものが脳血管性の認知症より多くなってきています。

このほかに認知症の症状が起こるものとしては、ピック病、レビー小体病、パーキンソン病、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、脳腫瘍、脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、エイズ脳症、アルコール脳症、甲状腺機能低下症などがあります。（原因となる疾患を治療すると認知機能が改善する可能性があるので治療可能な認知症）

⑦「アルツハイマー型認知症」

アルツハイマー型認知症は β -アミロイド蛋白といわれる異常な蛋白質が脳に広く蓄積し、神経細胞が変性し脱落する病気ですが、何故異常蛋白ができるのかはまだ十分には分かっていないのが現状です。特殊な型に家族性発症という極めて稀なものがありますが、この型にはいくつかの遺伝子が原因となると報告されています。

アルツハイマー型認知症の原因は、脳内でさまざまな変化がおこり、脳の神経細胞が急激に減り、脳が萎縮して（小さくなって）高度の知能低下や人格の崩壊がおこる認知症です。

- ・初期の症状は、徐々に始まり、ゆっくり進行する「もの忘れ」
- ・古い記憶はよく保たれますが、最近の出来事を覚えることができない
- ・同じことを何度も何度も聞きかえす
- ・置き忘れが多い
- ・抑うつや妄想ではじまることがある
- ・運動麻痺や歩行障害、失禁などの症状は初期にない
- ・CTやMRIなどの画像検査も正常かやや脳の萎縮がつよいという程度

⑧脳血管性認知症

脳血管性認知症は、脳の血管が詰まったり破れることによって、その部分の脳の働きが悪くなる認知症のことです。

脳血管性認知症の原因としては、脳出血、脳梗塞などの後遺症があります。有効な薬の開発により血圧のコントロールが行われ、脳出血は少なくなりましたが、脳梗塞の小さな発作が多発し、脳の白質が広範に侵されると認知症を来たすこととなります。

- ・脳のなかに大きな梗塞がある場合や小さな梗塞がたくさんある場合は、脳

全体の血流が低下している場合など様々な原因で発症

- ・脳卒中発作後に、突然、症状が現れたり、段階上に進行、悪化
- ・障害された場所によって、ある能力は低下しているが別の能力は比較的大丈夫という様に、まだら状に低下し、記憶障害がひどくても人格や判断力は保たれていることが多い
- ・高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙など、心疾患や動脈硬化の危険因子を持っていることが多い
- ・歩行障害、手足の麻痺、呂律（ろれつ）が回りにくい、転びやすい、尿失禁、抑うつ、感情失禁（感情をコントロールできず、ちょっとしたことで泣いたり、怒ったりする）などの症状が早期からみられる

⑨認知症と物忘れ（健忘）の違いは、ある程度年を取ると人の名前や物の名前がとっさに思い浮かばない経験をするようになります（度忘れ）が、大抵はその日の内に思い出すことができます。

認知症では、今朝、食事をしたことを思い出せません。物忘れでは、朝食を食べたことは覚えています、献立までは思い出せないといった状態です。

物忘れは、年齢相応の生理的現象と考えられていたが、最近の研究では、日常生活に障害はないが、年齢相応以上に物忘れのひどい人（軽度認知障害）の約8%が、5年後に認知症となると報告されています。